

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例 No.9

区分 感染症別の対策(抗菌薬耐性菌(MRSA など))

【質問】

メチシリン耐性ブドウ球菌(MRS)や基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ(ESBL)産生菌が検出された患者の病室対応をどのようにしたらよいでしょうか？例えば、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)とMRSの患者を同室にしてもよいでしょうか？

【回答】

メチシリン耐性ブドウ球菌(MRS)は病原性が低いため、隔離は行わず標準予防策で対応されたらよいと考えます。一方、基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ(ESBL)産生菌に関しては、隔離と接触予防策で対応されたらよいと考えます。

なお、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)とMRSでは菌種が異なるため、同室にしてもコホーティングとはなりません。もし、同室にするのであれば、MRSA患者に対しては接触予防策とカーテン隔離などの対策をとる必要があります。